

訪問看護で注射器等を安全に廃棄できる携帯用医療廃棄物容器の開発

看護学科 福井幸子

研究背景・目的

改良した最終試作品(商品プロトタイプ4号)の評価を通して、訪問看護に求められる携帯用廃棄容器の特徴を明らかにする。



研究方法

- 対象: 訪問看護師(以下、看護師)6名
- 期間: 平成31年3月8日～3月28日
- 方法: 同一の看護師が訪問先で【既製品】【商品プロトタイプ4号】(写真1)を使用し、ステーションに帰着後、調査票に回答した。【既製品】は「職業感染防止のための安全対策製品カタログ(第5版)」(職業感染制御研究会発行)で紹介している鋭利器材専用廃棄容器から、訪問看護師が選定した容器を使用した。調査票の質問は13項目で、選択肢、及び自由記述で回答する内容とした。その内、総合評価の9項目については、「大変良い、良い、あまり良くない、良くない」に、4点～1点を当て、平均値を出した。



結果・考察

総合評価の中で【商品プロトタイプ4号】の平均点が最も高かったのは、「密封性」3.5点、「安心感」3.5点(【既製品】同項目3.0点、2.8点)だった(図1)。【既製品】の平均点が最も高かったのは、「コンパクトさ・軽量性」3.3点(【商品プロトタイプ4号】2.8点)だった。平均点が最も低かったのは、【商品プロトタイプ4号】が「経済性」2.3点(【既製品】3.0点)で、【既製品】は「針刺し予防効果」2.8点、「安心感」2.8点(【商品プロトタイプ4号】3.2点、3.5点)であった。

調査票の結果から訪問看護に求められる容器の特徴を挙げると、ワゴンや床頭台などが無い利用者宅において、安定して置くことができる容器のデザインや、移動中に内容物が漏れせず、仮止めがなく確実に収納できる密封性、移動中の携帯が負担にならないようなコンパクト性と軽量性、容器内の廃棄物を移し替える場面で針刺しを起こさないための安全性であることが示唆された。



写真1. 調査で使用した携帯用医療廃棄物容器

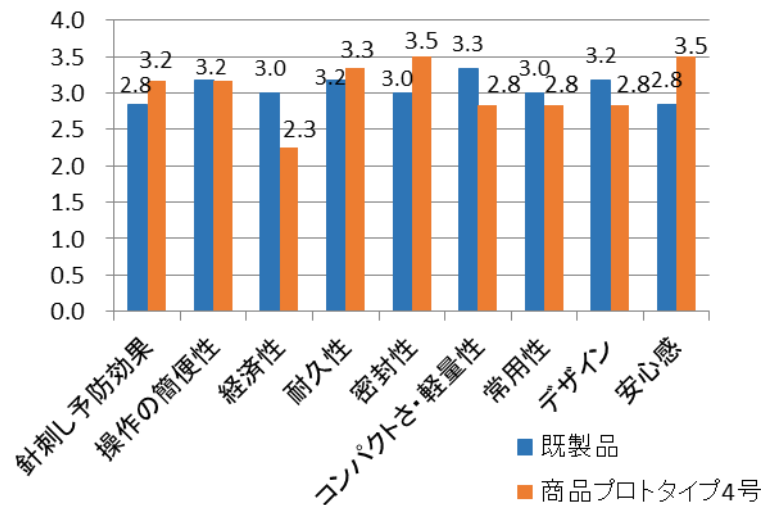


図1. 携帯用医療廃棄物容器使用後の総合評価